

沢登りであった。

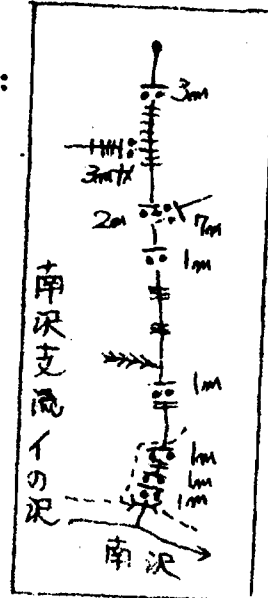
()

[タイム] 山本不動尊(6:05)→イの沢出合(6:20)→終了(6:40)

南沢支流口の沢

1988年9月17日

9:10南沢支流口の沢(仮称)の遡行開始。この沢は、他の南沢流域の支沢とちがって、伐採跡地を流れる明るい沢である。伐採跡地を流れる沢というものは、部分的にブッシュが茂ってきているのが難点である。この沢も例外ではなく、それほどひどいわけではなかったが、一部ヤブをわけながらの遡行となった。



出合から少し遡ったところで、5mの滝。右岸を直登するが、ホールド豊富で、どこからでも登れる。そのあとしばらくで、今度は10mの滝である。左岸を登り、中ほどで沢身に移り、ナメ状となった上部は右岸を登る。この沢のハイライトは、この2つの滝で、あとは平凡となった。

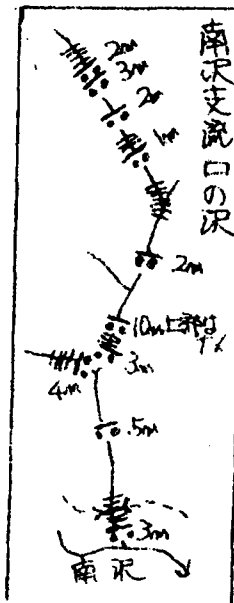
小滝を越えながら進むと、やがて樹林帯に入る。するとすぐに沢は終わりとなってしまう。遡行終了9:40。

()

[タイム] 口の沢出合(9:10)→終了(9:40)

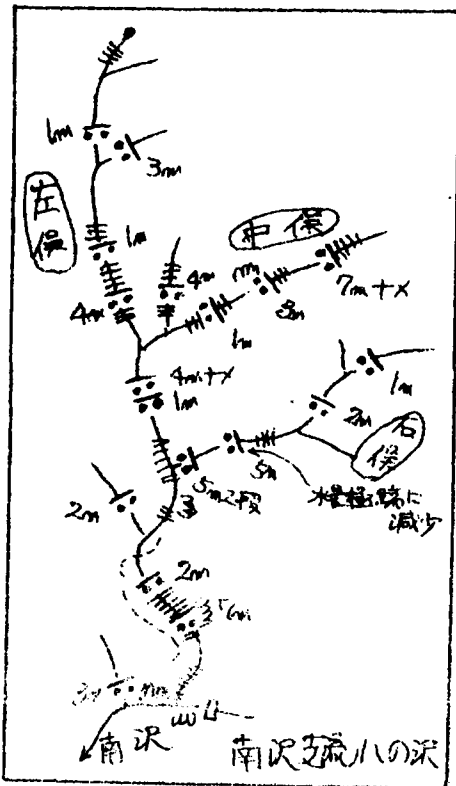
南沢支流ハの沢右俣、中俣、左俣

1988年9月17日



南沢本流にかかる砂防ダムのすぐ下流で合流しているのがハの沢(仮称)である。7:00遡行開始。出合からナメを少し遡ると、やがて7mの滝。ナメ状でホールドは豊富。左岸を楽に直登するが、なかなか幸先が良い。

つづく2m滝を越えると、水量が減少した。滝を越えるごとに水量が減少するのが、この沢の特徴のようで、この先も



滝の上に出ると、水量が少なくなる感じが続いた。

出合から10分遡った所で右俣出合。右俣は5m 2段の滝をかけて合流している。まずはここからと出合の滝に取り付く。下部はナメ状で、楽に登れ、上段は左岸を直登する。そのあとすぐに5m滝が出てくる。ここはホールドが少なかったが、右岸を直登する。この滝を越えた所で、水量がぐっと少なくなった。もう源流の装いである。まもなく沢筋は落葉の中に埋まる。7:20遡行終了、そのまま引き返して左・中俣の遡行を再開する。

左・中俣もすぐ4m滝をかける。そしてそれを越えた所で水量が減少。流れの幅も細くなる。そしてすぐ中俣出合。中俣は全体として平凡であったが、小滝とナメがあり、

その最後をかざるようにして、7mのナメ滝があった。ここは適当にホールド、スタンスのある滝で、楽に直登でき、それを越えた所が源頭であった。

最後の左俣は、最も平凡。でだしにナメと4m滝があるだけで、あとは細いミゾ状の流れが源頭まで続いているだけであった。8:10遡行終了。(

[タイム] ハの沢出合(7:00)→右俣出合(7:10)→右俣終了(7:20)→中俣出合(7:30)→中俣終了(7:50)→左俣終了(8:10)

南沢支流への沢

1988年7月23日

12:55への沢(仮称)の遡行開始。林道南沢線の奥にある砂防ダムを越えると、5m滝が二つ続いた。いずれも直登。やがてくの字に曲がった15mナメ滝。直登する。下段は傾斜もゆるく、フリクションで登る。上段はホー

